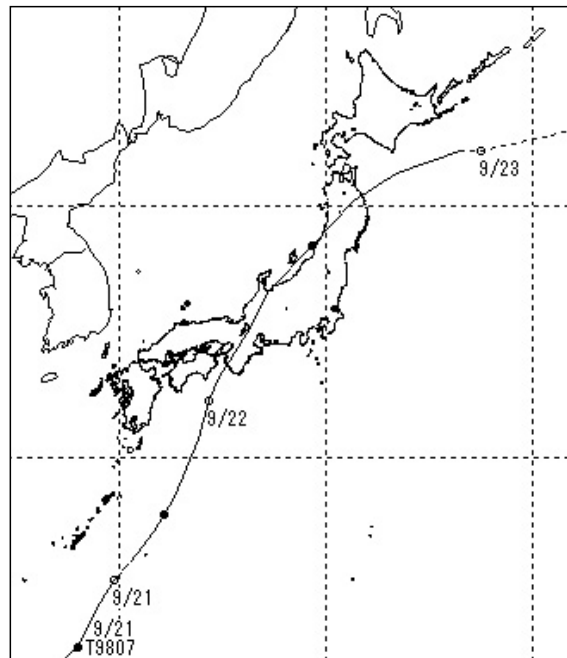


風速60メートルに迫る暴風で 文化財への被害が過去最悪に

先に上陸した台風第8号に引き続いて、2日連続で上陸することになった台風第7号では、突風で窓ガラスが割れ2名が死亡したほか、国宝や重要文化財を大破するなど県内各地に大きな傷跡を残しました。最大瞬間風速59.5メートル/秒が観測された地域もあり、第2室戸台風に次ぐ強風が吹き荒れました。

1. 台風の進路と低気圧

9月17日午後9時、フィリピンのルソン島西海上に発生した台風第10号は南西諸島の東海上を発達しながら北東に進みました。22日には四国の南海上を北上し同日午後1時すぎに、中型の強い勢力で和歌山県御坊市付近に上陸。スピードを速めながら午後2時に大阪市の南30キロ地点、午後3時に彦根市の南西30キロ地点を通過し、午後6時に富山湾に至り、そこから日本海沿岸を進み、午後10時前に山形県鶴岡市付近より再上陸しました。そのまま東北地方北部を通り、23時午前9時に北海道東海上で温帯低気圧に変わりました。



台風の進路

(奈良地方気象台ホームページ「強風による災害事例」より)

2. 県内の天候の推移

和歌山県御坊市付近に上陸した台風第10号は、22日午後2時ごろから3時すぎにかけて県内を通過しました。奈良地方気象台では、午前6時30分に暴風警報、その約3時間後の9時50分には全県に大雨・洪水警報を発表。風雨が激しくなってきたのは台風が紀伊水道に達したところからで、雨のピークは台風が県内を通過する前、風のピークは通過する前後にやってきました。各地の雨量は22日午後4時の時点で、大台ヶ原が565ミリ、上北山村354ミリ、玉置山で274ミリ、大宇陀町で85ミリ、奈良市で62ミリとなりました。

風速では奈良地方気象台で22日午後3時に観測した数値では、最大風速が南南西の風13.1メートル/秒で、最大瞬間風速は西の風37.6メートル/秒（午後3時30分計測）で、これは第二室戸台風（昭和36年9月）に次いで3番目の強風となりました。なお新庄町（現葛城市）の西葛城消防組合消防本部の観測では、最大瞬間風速が59.5メートル/秒（午後2時59分観測）に達したということでした。各警報は、風雨が収束した午後5時20分に解除されました。

| | |
|-------|------|
| 奈良市 | 45.6 |
| 大和郡山市 | 46.3 |
| 生駒市 | 50.7 |
| 王寺町 | 33.3 |
| 香芝市 | 56.8 |
| 新庄町 | 59.5 |
| 桜井市 | 46.9 |
| 榛原町 | 42.1 |
| 橿原市 | 39.6 |
| 五條市 | 31.1 |
| 大淀町 | 40.2 |
| 吉野町 | 39.9 |

各消防本部観測による最大瞬間風速
（各消防本部発表より）

（単位：メートル/秒）

3. 被害のようす

奈良県では台風8号の影響もあって、22日朝の時点で雨量が400ミリを超えている個所もあり、県内ほぼすべての小・中・高校が警報の発令に伴い臨時休校になりました。午前9時すぎには桜井市の工事現場で土砂崩れの危険が出たので、近隣の4世帯7名が自主的に長谷寺境内に避難しましたが、これは雨の影響によるものでした。



強烈な西の風で北東側に倒れたコンクリート電柱
（香芝市鎌田）（写真提供：奈良新聞社）

台風第10号が紀伊半島に上陸する2時間前の午前11時、御所

市柳原地区約35世帯で最初の停電が発生。これは強い風で枯れ枝が電線に触れたために起こりました。その後、午後1時ごろから菟田野町約2,000世帯、下市町阿知賀で約1,000世帯など、県南部を中心に約5万世帯で停電しました。また、電動式の配水ポンプが動かなくなったため、断水する地域も出ました。電話回線は、天川村と東吉野村で約850回線が不通となり無線電話が設置されたほか、家屋への引き込み線の断線など県全域で多数の故障が発生しました。

上北山村の日出ヶ岳で正午から1時間の降水量が53ミリと観測されるなど、雨量はさらに増し、西吉野村和田では山の斜面が崩れ始め、午後1時30分に近隣住民が避難を開始しました。またそのころより、市街地では大和郡山市の工場で入り口のほりが外れて落下したり、橿原市ではビルから鉄骨製の屋根の部分が約7メートル飛ばされたり、保育園の屋根が吹き飛ばすなど、各所で風による被害が出始めました。

台風が県内を通過する午後2時ごろになると雨と風で目を開けていられない状態となりました。各道路は吉野郡では規制雨量を超えたため昼ごろから通行止めになっていましたが、午後3時前後には強風で西名阪道、名阪国道が相次いで通

行止めとなったほか、室生村内では国道が落石のため、東吉野村内では土砂崩れのためそれぞれ通行止めとなりました。23日午後2時までに県道路維持課がまとめた道路被害状況は、国道17か所、地方道34か所の計51か所が通行止めとなりました。

鉄道関係でも被害が出ました。午後3時すぎ強風により、近鉄南大阪線の尺土駅(現葛城市當麻町)近くで、架線を支える高さ約10メートルの鉄柱12基が約500メートルにわたって倒壊。橿原神宮前駅と尺土駅間が23日午後5時40分まで不通になりました。ほかに同吉野線は22日午後1時30分から運休し翌午前6時32分から運転再開したものの、吉野口駅と吉野駅間は約100本の倒木のため、復旧が同日の夜以降に持ち越されました。JRは和歌山線で高田駅と五条駅間で停電により信号機や踏切遮断機が動かず23日まで終日運休となりました。直接の被害がなかった県内のほかの鉄道各線は、22日午後より雨や強風によりほとんどが運転を見合わせ、県民の足は大きく乱れました。

県内各地区では午後3時前後に吹き荒れた強風で、瓦が飛ばされた家屋が無数にあり、県警の対策本部によると「多過ぎて破損家屋の全体数は把握できない」という状況でしたが、県のその後の調査では全壊家屋50棟、半壊571棟、一部損壊7,150棟という結果が出ています。



屋根が吹き飛ばされた保育所
(「奈良新聞」平成10年9月25日付より)



五條市大川橋で横転したトラック
(写真提供：奈良新聞社)



夜間の鉄道復旧作業 (写真提供：奈良新聞社)

■ 3-1 文化財への被害

強風は県内の文化財にも大きな傷跡を残しました。県教育委員会の調査によると、被害を受けた国指定文化財は77件。内訳は、重要文化財が65件（うち国宝が9件）、特別史跡が1件、史跡が6件、名勝が1件、天然記念物が4件となり、特に建造物の被害が大きく、県内に260あ

る国宝、重文に指定されているもののうち、4分の1に当たる63件が台風で傷つけられました。ほかに県指定文化財40件も何らかの被害に遭い、ほとんどが強風か、強風で倒れた木による被害でした。被害額は推定で15億円に上ると見られ、自然災害による文化財の被害では過去最悪となりました。



奈良公園での後片付け（写真提供：奈良新聞社）

室生寺

境内の杉の巨木（直径約2メートル、高さ約60メートル）が強風で倒れかかり、国宝建造物である五重塔が破損しました。被害規模は檜皮ひわだぶきの屋根が五層とも損壊し、塔の頂についた相輪も先端部が折れ曲がってしまいました。



倒木で破損した室生寺五重塔

（写真提供：奈良新聞社）

証言

当時、私は室生寺の職員をしていました。朝から雨風が強くて、台風の進路が室戸を上がってくると聞いて、第2室戸台風と同じように強い風が吹くのではと心配していました。参拝者もお越しになりそうにもなく、早々にお寺は門を閉め、5、6人が残ってほかの職員は皆帰宅させました。

午後2時ごろから風が強くなりだしました。私は管長と奥の間にいたのですが、外の様子があまりにひどいようだったので、管長が「ちょっと境内を見に行こうか」とおっしゃられ、庫裏くらの玄関から出たのですが、立ってられないほど風が強くて、2人して柱にしがみつきました。その時、裏の山の方でバリバリドスンと木の折れるようなものすごい音がして、それが気になったものの、何が飛んでくるか分からず危険なので様子を見ることはあきらめました。

4時半ごろになって風も収まり、私はもう一人の職員と境内を見に外に出ました。そこには折れた枝が散らばり足の踏み場ふみばたもないほど荒れていましたが、それを踏み越えてお堂を一つずつ見て回りました。鎧坂よろいざかを登って、弥勒堂みろくどうは何ともない、金堂も大丈夫。本堂も無事……と、その本堂の脇を入ると、五重塔がずっと立っているのですが、相輪が折れている。ああ、と思いながら近づくと、どうもいつもの印象と違い、左側のうっそうとしていたところが妙に明るい。急いで駆け寄ってみたら正面側からは何ともない。でも、横に行くと大木が倒れこんで屋根が上から崩れているのを発見しました。

もう一人の職員は、奥の院も確かめに行くと言ったので、私は管長に知らせに戻りました。再び管長と見てみると、やはり屋根は壊れたままでした。管長は「えらいことになったなあ」と相当に驚かれたようで、「こんな無惨な姿をご参拝者にお見せするわけにはいかんから、すぐ何かで包め」と言われましたが、包めと言われてもすぐにどうすることもできず、とりあえずは県教育委員会の文化財保存課に連絡しました。午後5時を過ぎていましたが幸い担当の方がいて状況を説明しました。

翌日、県からは2名来られて、たまたま天理に文化庁の方も来ていたので、早速、被害状況を調査してもらいました。あまりのひどい有様に解体を覚悟していましたが、調査の結果、心柱はみじも動いていなかったみたいで、修理で何とかなるということでした。解体ともなれば費用が15億ほどかかり、下手をすると国宝の指定から外されてしまう可能性もあったので、いったんは安心できました。

修理で済むとはいえ、作業は相当に大掛かりなものでした。塔の周辺に足場を組み、全体に覆いをしていろいろな事前調査を行ったようでした。2層目と3層目を60センチほどジャッキアップし、4層目と5層目はばらばらに解体されました。何百とある部材一つずつに番号を打ち、悪くなった部分は交換して組み立て直し、屋根をふき替え色も塗り直しました。

屋根にふく檜皮ひのかわは、室生寺周辺に生えているヒノキの立ち木の皮をはぎ用意しました。室生寺は淳和天皇より賜った山林600町歩を所有していて、仁王門の建造や修理などはほとんど自前の木で賄っていました。檜皮ぶきには樹齢200年以上のものを使わなければならない、6～70本分の皮を使いました。皮は12、3年で再生されます。

また、五重塔周辺の木が20本ほど倒れてしまいましたが、それらを下に降ろすにも石段なので難しく、現場で製材してしまい短くして、新たに作った迂回路を使用して運び出しました。それらの木材は倉庫に保管しておき、以後、鐘付堂や護摩堂、本堂の修理などに用いました。余った部分でお土産用にコースターやお盆などもこしらえました。

落慶は3年後に行いましたが、修理にかかった歳月は実質2年ほどです。半年ほど調査に費やし、修理を行い、残りの半年間でご参拝の方に足場に登ってもらい近くから観覧していただきました。費用は建物だけで1億5千万。ありがたいことに全国から7,000件ほどの寄付をいただき、また、災害ということで国から多くの補助も受けることができました。台風が去ってひと月ほどしたころ、私は修理の算段で寝食を忘れていろいろと対応し疲れ切っていたときのことです。寺務所の電話が鳴り私がそれを取りました。当時の総理大臣から直々の電話でした。「大変でしょうが、国宝なので国でちゃんとやるから心配しないように」と、心強い言葉をいただきました。感動で疲労も吹き飛び、何とか五重塔を元の姿によみがえらせることができました。

(宇陀市 当時69歳 男性)

春日大社

樹齢約150年とみられる大杉が春日大社の東廻廊（重要文化財）に倒れかかり、下敷きとなった屋根の一部が破損しました。

金峯山寺

強風により、本堂である蔵王堂（国宝）南側の檜皮ひのかわ屋根の一部がはがれました。



大杉が倒れ、破損した春日大社東廻廊
（『奈良新聞』平成10年9月24日付より）

天満神社

金峯山寺蔵王堂の隣りにある、県文化財指定の天満神社では倒木で本殿が半壊しました。



背面の杉が倒れ、破損した天満神社本殿。
背後に蔵王堂が見える

法隆寺

世界最古の木造建築物として世界遺産にも登録されている法隆寺西院伽藍（国宝）では、倒木により回廊の屋根瓦が破損しました。ほかに、三経院の檜皮屋根の一部が飛び、松が重要文化財である築地壁に倒れて6か所が破損。上土門の扉の一部が強風で吹き飛びました。

今井町

国の重要伝統的建造物群保存地区に当たる今井町（橿原市）では、全域で重要文化財に指定されている民家の屋根瓦が飛んだり壁のしっくい^{しっくい}が落ちたりと被害が出ました。また町の中核的建築物である称念寺では本堂の瓦が数百枚落ち、重さ40キロの鬼瓦も落ちそうになりました。同寺は県文化財の指定を受けたばかりでした。

ほかに、橿原神宮では重要文化財の本殿、幣殿などの屋根の檜皮がめくれ、薬師寺東塔（国宝）の壁の一部が剥落、石上神社拝殿で大棟銅板が一部破損、談山神社の惣社拝殿（重要文化財）が倒木で一部損傷、當麻寺西塔での雨漏りと東塔で屋根瓦破損、菟田野町（現宇陀市）の宇太水分神社本殿（国宝）で軒先破損、五條市の栄山寺で石灯籠（重要文化財）が強風で倒壊、奈良市の靈山寺で三重塔（重要文化財）の屋根が破損するなど、県全域のあらゆる場所で被害が出ました。

■ 3-2 人的被害

2名が死亡した新庄町（現葛城市）は、消防署の計測では最大瞬間風速が59.5メートル/秒と、県内で最大値を記録した地域でした。

9月22日（火）午後2時10分ごろ 北葛城郡新庄町（現葛城市）

台風で風が強くなったため、女性（63歳）が2階6畳間の雨戸を閉めようとしたところ、窓ガラスが割れたときの破片が首に刺さり、けい動脈を切って死亡。

9月22日（火）午後2時32分ごろ 北葛城郡新庄町（現葛城市）

強風が吹いたので、女性（73歳）が玄関のガラス戸を押さえていたところ、ガラスが割れ、その破片で左太ももを切り死亡。

ほかに、22日午後2時50分ごろには宇陀郡菟田野町役場(現宇陀市)の建設現場で風にあおられたトタン屋根の下敷きになって現場作業長の男性(40歳)が頭を打ち意識不明の重体になるなど、強風による被害で60名近い負傷者が出ています。



五條市の農園で落下した出荷間近の柿
(写真提供：奈良新聞社)

■ 3-3 続く台風の被害

風による被害は、台風が去った後も住民に不自由な生活を強いることとなりました。県内約10万戸に及んだ停電は、25日午後6時の時点で吉野郡、宇陀郡などの1,000戸以上で続き、一時約1万9,000戸で発生した断水も、山辺郡などの900戸でまだ復旧しませんでした。ライフラインがほぼ復旧するのは29日夕刻ごろになりました。

鉄道網は24日の始発で全線復旧しましたが、学校は、倒木などで安全な通学路が確保できないことで34校が休校し、25校で途中休校などの措置が取られました。桜井市河西では、同日午後3時に、台風の影響で地盤が緩み樹木が民家に倒れる恐れがあるとして9世帯17人に避難勧告が出されるなど、安心できない状況が続きました。

今回の台風で最も被害を受けたのは五條市でした。全壊34戸、半壊73戸、一部損壊は200戸以上に達し、2,700戸が停電しました。中でも老朽化していた木造平屋建ての市営住宅の住民をはじめ、28日の時点で24世帯41名が公民館などでの避難所生活を余儀なくされました。また、ちょうど出荷時期と重なった特産品の柿は、赤く色づいた実の多くが落ちてしまい、被害額は約15億円に上ると見られました。五條市は同日までに災害救助法の適用を受けることになりました。同法の適用を受けることで、県や市が国から委任された実施機関となり、応急仮設住宅の建設、食飲料品の供給、生活必需品の給与、医療・助産、住宅の応急修理、学用品の給与など応急救助に当たることになりました。



瓦などがはがれ、1週間経過してもビニールシートで覆われた屋根 (写真提供：奈良新聞社)

4. この災害の特徴

奈良地方気象台の観測した最大瞬間風速は、西の風37.6メートル／秒（午後3時30分計測）でしたが、生駒市や香芝市、新庄町の消防本部では50メートルを超す最大瞬間風速が記録されています。そういった現象が起った要因には、地形的な要素も関連していました。一般的に両側を山地に挟まれ谷間となった地域は、風が山に当たって遮られ、谷になった部分に空気が流れ込む「収束現象」が発生し風力が強くなる傾向にあります。また、山のすその地域では山に当たった風が斜面に沿って下る「吹きおろし現象」が起き、突風の吹く恐れが出てきます。59.5メートル／秒の最大瞬間風速を記録した新庄町（現葛城市）は、西に葛城山があり、北西方向にある信貴山との間には国道や鉄道の通る低地があったため、風の強さや風向きによっては突風の吹く可能性がある地域でした。